

14 砂防事業における新しい住民参加型溪流づくりの取り組み ～土石流危険溪流における水辺の楽校プロジェクト～

愛知県一宮土木事務所 麻生亨、丹羽弘之
アジア航測株式会社 ○工藤容子、北原一平

1.はじめに

砂防事業における住民参加への取り組みについては幾つか事例報告¹⁾²⁾がなされている。本報告では愛知県犬山市の栗栖地区を対象に、地域が一体となった水辺づくりを行うことを目的とした「水辺の楽校プロジェクト」の事例を紹介する。本計画では整備計画策定への住民参加というプロセスを重視³⁾⁴⁾し、地域住民・行政から成る協議会を開催したほか、栗栖小学校の協力を得て、全校生徒を対象にしたワークショップを授業の一環として開催⁵⁾した。この取り組みにより、児童をはじめとする地域住民の川づくりに対する感心を高めてもらうとともに、これらの方々の意見を溪流保全工(旧称流路工)の計画ならびに楽校計画(利活用計画案)に対して反映させることができた。

2.計画対象地域と計画の背景

栗栖川は、木曾川左支川の土石流危険溪流である(流域面積 0.46km²、計画区間溪床勾配 1/30～1/44)(図 1)。谷出口付近には緑の砂防ゾーンが計画されており、水辺の楽校プロジェクトの対象区間はこれを含めた下流側全体である。栗栖地区は人口 450 人(H9 年現在)であり、栗栖川より約 100m 左岸側にある栗栖小学校は児童数 27 名(H10 年度)である。



3.住民参加への取り組み

住民参加型進めた本計画の流れを図 2 に示す。

3.1 住民説明会

H9 年に開かれた住民説明会では、緑の砂防ゾーンと水辺の楽校の事業説明、栗栖地区での計画概要について説明が行われ、計画に対する理解と協力の要請がなされた。

3.2 栗栖川水辺の楽校推進協議会

栗栖川水辺の楽校推進協議会では「水辺整備内容(ハード面)」と「楽校計画(ソフト面)」の検討が行われた。水辺整備内容の検討にあたっては、一般の方には見慣れない図面類を分かりやすく視覚的に表現することにより、議論が充実するように配慮し、最終的にはイメージ図の提示を行った。また、検討に先立ち、栗栖川についてより良く知り、考えるため栗栖小学校の授業の一環としてワークショップ活動が行われることとなった。

3.3 ワークショップ活動

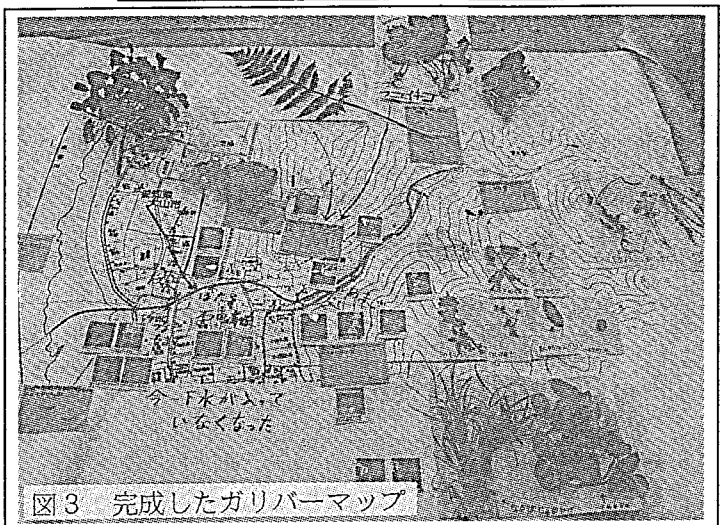
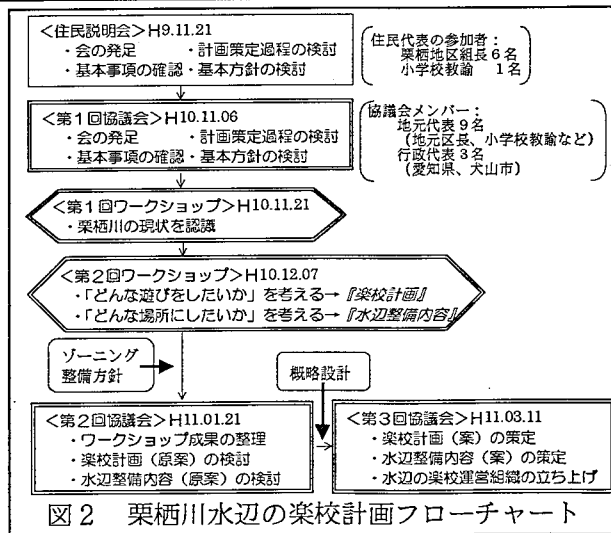
ワークショップ活動では、全校児童 27 名を 4 班に分け、栗栖小学校教員、推進協議会、栗栖老人クラブ等からの参加者が児童のアドバイザーとなった。

3.3.1 第 1 回ワークショップ活動

第 1 回ワークショップ(表 1)では、「現在や昔の栗栖川の様子を

表1 第1回ワークショップスケジュール

9:00	第1回ワークショップ説明
9:05	参加者の紹介
9:15	ガリバーマップ作成 1 栗栖川についての知識、経験を書き込む。
10:00	野外活動 おもしろいものを採取したり、写真を撮ったりするなど遊びを通じて栗栖川を再発見する。
11:00	ガリバーマップ作成 2 野外活動の結果(採取した植物や写真など)を貼る。植物や石について詳しい話を講師に聞く。
11:40	発表会 完成したガリバーマップを班ごとに発表する。



活動では、植物の採取やポラロイドカメラでの撮影などを行ったほか、同行した植生や地質を専門とする者が、途中解説を行った。また、老人クラブの方より昔の様子や遊びを聞いた。その後の室内作業では、採取した植物・写真や野外活動での体験をガリバーマップに貼り付け(図3)、発表を行った。

3.3.2 第2回ワークショップ活動

第2回ワークショップ(表2)では「どのような遊びをしたか、どのような場所にしたか」を目的とした。小学校では、栗栖川にいる、あるいは昔いた生きものの生態等について、本や図鑑を利用した事前学習が行われた。ワークショップには、児童が自由な発想で作品を作ることができるよう、紙粘土や発砲スチロールのほか、小枝や小石などを準備し、生物がすむためにはどうすれば良いか、川遊びをするにはどうすればいいか等を話し合いながら、溪流の模型が作成された(図4)。発表後は、互いに評価を行った。

9:00	第2回ワークショップ説明 完成したガリバー地図を見ながら栗栖川の自慢できる場所、もっと直したいところ、ほかに遊んでみたいことなどを話し合う。
9:20	模型の作成 栗栖川でどのような遊びをしたいか、どんな川にしたいかを、絵や文に表したり、粘土やダンボールで表現し、ガリバー地図に配置する。
11:30	発表会 自分たちの考えた栗栖川アイデアについて班ごとに発表し、話し合う。その後、それぞれが気に入ったアイデアに旗をたてる。

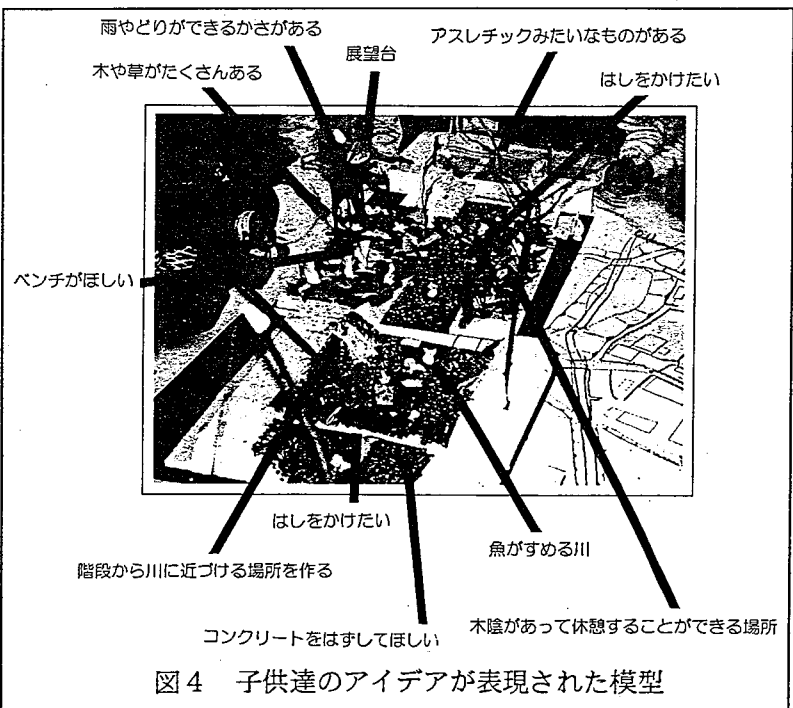


図4 子供達のアイデアが表現された模型

4.水辺整備計画への反映

第2回ワークショップでは、栗栖川に対する児童の様々な希望が表現された(表3)。これ

1)	生きものがすめる栗栖川
2)	木や草花がたくさんある栗栖川
3)	川遊びができる栗栖川
4)	野山遊びができる栗栖川
5)	いこいの場としての栗栖川
6)	水のきれいな栗栖川

らの希望については推進協議会での議論とともに、自然環境・景観の保全、利用への配慮という観点で整理した。この結果と関連計画、周辺土地利用現況を考慮しながら、ゾーニング及びゾーン毎の整備方針の策定を行い、最終的には住民の意見を施設(溪流保全工)の概略設計に可能な限り反映させた。図5には計画前に設計された旧計画断面との比較例を示す。また、計画区間全体のテーマ「栗栖川やんちゃ村」は児童から出た案を協議会で議論し決定したものである。

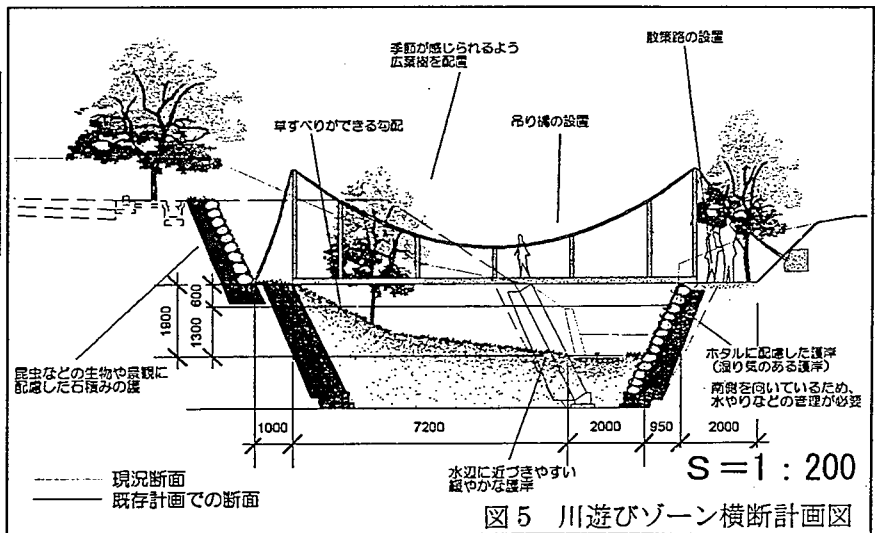


図5 川遊びゾーン横断計画図

5.まとめ

本水辺の楽校計画では、学校ぐるみの参加をはじめ、地域住民の積極的な参加のもと、そこから得られた要望を最大限溪流整備に反映させることができた。計画策定への流れがスムーズに展開したのは、計画早期の段階から行政と地元で頻繁な連絡や小学校の熱心な取り組みが行われた結果であるともいえる。今回の取り組みの結果、楽校計画を小学校の学習プログラムに取り入れるなどの継続的な溪流の利用、整備内容やテーマに地域の意見が反映されることによる水辺に対する意識の高揚、利用面・維持管理面への積極的参加も期待される。

今後、「栗栖川水辺の楽校推進協議会」は地域住民主体で運営される予定である。今回行われた地域住民の栗栖川に対する取り組みが継続・発展していくために、1~2年は協議会やイベントの開催などにおいて、行政からの積極的な支援も必要と考えられる。

参考文献：1)月間メディア砂防, 1996, 11月号

- 2)鈴木ほか; 住民参加による床固工群後背土地利用計画の立案について, 平成10年度砂防学会研究発表会概要集, pp268-269
- 3)君塚芳輝; 水辺の楽校をつくる, ソフトサイエンス社
- 4)建設省河川局河川環境課; 水辺の楽校マニュアルブック, ピオシティ
- 5)こどもとまちづくり研究会; こどもとまちづくり, 風土社